



イノセントワールド—天下無賊— (天下無賊/A WORLD WITHOUT THIEVES)

2007(平成19)年3月27日鑑賞(東宝東和試写室)

監督・脚本=馮小剛フォン・シャオガン / 出演=劉德華アンディ・タウ / 劉若英ジュネ・リウ / 葛優グオ・ヨウ / 李冰冰リー・ビンビン / 王宝強ワン・バオキヤン / 張涵予チャン・ハンユ
ゴ・ピクチャーズ配給 / 2004年中国映画 / 116分)

……お正月映画の第一人者で、「中国の山田洋次監督」と呼ばれる馮小剛フォン・シャオガン監督の、2005年のお正月作品は楽しさいっぱい。そして、性善説 vs. 性悪説を考える人生哲学もタップリ……？ 一匹狼のスリと窃盗集団そして警察官を含めた三つ巴の闘いが展開されるのは、チベット鉄道の列車内という密閉された舞台。美しい風景とプロの妙技に酔いながら、馮小剛フォン・シャオガン監督特有の人間に対する温かい視点をじっくりと味わおう。

さすが馮小剛フォン・シャオガン監督、さすが葛優グオ・ヨウ

「中国の山田洋次監督」と呼ばれる馮小剛フォン・シャオガン監督は「お正月映画」の第一人者で、中国では大衆から最も愛されている監督と言われている。私が観た『ハッピー・フューネラル』(01年)、『シネマルーム5』276頁参照)は実に面白く心温まる名作だった。彼の最新作は章子怡チャン・ツイイー主演の『女帝 エンペラー』で、これは3月29日に観る予定だが、今日は2005年のお正月映画として『カンフーハッスル』をおさえてNo.1ヒットとなった『イノセントワールド—天下無賊—』を楽しく鑑賞。キャラの配置とツボをおさえたストーリーづくりは、「さすが馮小剛フォン・シャオガン監督!」と思える出来。また、馮小剛フォン・シャオガン監督作品に欠かせない名優が葛優グオ・ヨウ。彼の代表作は何といっても、カンヌ国際映画祭で最優秀主演男優賞を受賞した張藝謀チャン・イーモウ監督の『活きる』(94年)、『シネマルーム5』111頁参照)だが、『ハッピー・フューネラル』や『わが家の犬は世界一』にも出演し、妙技を見せている。そして2005年の正月映画として中国で大ヒットしたこの『イノセントワールド—天下無賊—』でも、盗賊集団のリーダー胡黎フー・リーという

不気味な役(?)で登場し、例によって見事な怪演を……。

「チベット鉄道」完成前だが

2007年1月2日にNHK総合テレビで放映されたチベット鉄道(青蔵鉄道)は、西安の西にある西寧からチベットのラサまで所要27時間の列車の旅に撮影クルーが同乗し、車窓風景や名所、沿線の人々などを追ったもので、「さすがNHK!」というすばらしい番組だった。チベット鉄道は最高地点が海拔5072mという世界一高い場所にある鉄道で、このような高所に鉄道が建設されるのは世界でも例がないもの。したがって、まさに「世界の屋根」を走る鉄道。しかし、貨物輸送が開始されたのが2005年10月、そしてゴルムド～ラサ間の旅客営業運転を開始したのが2006年7月1日で、正式開業は2007年7月1日の予定ということだから、この映画が製作された2004年の段階では、この青蔵鉄道はまだ走っていないはず……。すると、この映画の舞台になるとともに、密室ならではの面白い盗賊合戦を展開しているあの列車は、どこからどこへ走っているの……? 中国人なら誰でもわかるのかもしれないが、日本人にはそこらが少しわかりにくい……?

香港・台湾・中国から

最近是中国・香港・台湾・韓国・日本の俳優やスタッフを結集したアジア映画が増えているが、これは中国を盟主とした新たな大東亜共栄圏づくりの一環……? そんなキナ臭い考え方や議論は横におき、映画の世界では純粹にそのコラボレーションの楽しさを味わいたいもの。馮小剛フォン・シャオガン監督が主演として起用したのが、香港のスーパースター劉德華アンディ・ラウ。彼が演ずる王薄ワン・ポは、一匹狼として詐欺やスリ稼業で生きている悪党。しかし、その悪党の本性が実は……というのが、いつも人間に対して温かい目を注ぐ馮小剛フォン・シャオガン監督がこの映画で描くポイント。

また、この王薄ワン・ポと行動を共にしている恋人王麗ワン・リーを演ずるのは、台湾の歌手兼美女女優の劉若英レネ・リウ。映画の冒頭、王薄ワン・ポとの巧妙なタッグによる「美人局」的手法によって、大金持ちからBMWの高級車を騙しとった王麗ワン・リーだが、その後「泥棒稼業から足を洗いたい」と言い始めたのが、波乱の物語のスタート。彼女はなぜ急にそんなことを言い始めたの……?

他方、窃盗集団の大ボス胡黎フー・リーの傍にいつも付き添っている美女小葉シャオイエを演ずるのが、

『シルバーホーク』(04年)や『ドラゴン・スクワッド』(05年)で私も知っている
リー・ピンピン 李冰冰。スリの腕前も一流だが、フー・リー 胡黎の目の前で演ずる柔軟体操や、ワン・ポー 王薄の目を困惑させるような胸元チラリ、太ももチラリの演技はお見事で、フォン・シャオガン 馮小剛監督のサービス精神に感謝！まずは、こんな香港・台湾連合 vs. 中国本土組の、男女2人ずつのスリのキャラと妙技に注目！

あと2人キーマンが

この映画を複雑で面白いものにしてているのは、人を疑うことを知らず、「世の中に泥棒なんているはずがない」と信じている農家の青年シャーケン(王宝強)の登場と、彼が出稼ぎで貯めた結婚資金6万元(約100万円)を持って田舎に帰っていることを人込みの中で口にしてしまったこと。つまり、シャーケンがカバンの中に持つ6万元の窃取を狙ってワン・ポー 馮小剛とフー・リー 胡黎が動き始めたというのが基本ストーリー。列車の中にはトンマな強盗団も潜伏していたようで、物語の途中彼らが急に動き出すのも一興だが、それ以上にきっちりとした存在感を示すのが警察官(張涵予)。この警察官は酸いも甘いもかみ分ける度量のあるタイプだから、人間的魅力がいっぱい……？シャーケンと警察官を演じる2人は共に中国本土出身だから数的には本土組が優勢だが、お互いを信頼したワン・リー 王麗とシャーケンは姉と弟の契りを結ぶ(?)から、6万元をめぐる三つ巴の泥棒合戦は五分と五分……？こんな面白いキャラが、知力と秘術の限りを尽して6万元窃取の攻防戦を展開するのだから、面白いのは当たり前……。

プロの技術の数々を堪能

この映画の面白さの1つがプロの妙技だが、それをスクリーン上でどのように表現するかは難しい。一瞬の早業をわかりやすく表現するにはスローモーションが1番だが、それだけでは能がない……？さて、そんな映像技術を含めたプロの妙技を、フォン・シャオガン 馮小剛監督はどのように表現……？他方、ワン・ポー 王薄もフー・リー 胡黎も、自分たちは強盗ではなくプロの技を持ったスリだということに誇りを持っているが、まるっきり武器を使わないわけではなく、右手の指の間に挟み持った刃物を巧みに操ることによって、相手に致命傷を与えるワザの応酬は格闘技そのもの……。そんな刃物を含んだ早業を、どのような映像技術で表現……？

🎬 やっぱアツと驚く結末が！

「列車モノ」は「潜水艦モノ」と同じく密閉された空間という制約がある。そのため、否応なく人間の本性が露出してくるところが面白い。物語の進行の中で、王^{ワン・ポー} 薄^{ポー}と王^{ワン・リー} 麗^{リー}のキャラ、胡^{フー} 黎^{リー}と小^{シャオ} 葉^{イエ}のキャラそして警察官のキャラが明確に示され、そのぶつかり合いのポイントも観客ははっきりと理解できる。

そんな三つ巴の闘いで最後に勝つのは主役の王^{ワン・ポー} 薄^{ポー}と考えるのが当然だし、そういうストーリーにすることはもちろん可能。しかし、そんなハッピーエンド(?)では面白くない。そう考えた馮^{フォン} 小^{シャオ} 剛^{ガン}監督は、二転、三転、四転するストーリー展開と、アツと驚く結末を用意している。したがって、最後まで集中力を切らさず、スクリーンに注目を……。

2007(平成19)年3月28日記

ミニコラム

中国の官场（官界）小説に注目！

「表現の自由」が憲法上の権利として保障されている日本と違い、中国では表現すること自体に多くの規制がある。ところが今中国では、腐敗する共産党や政府の高官、それと闘う地方幹部らを主人公にした「官场（官界）小説」が市民に大人気らしい。張平の『十面埋伏』もその1つ（ちなみに張^{チャン} 藝^{イー} 謀^{モウ}監督の『LOVERS（十面埋伏）』とは全く別モノだから注意）。

そんな中、08年3月15日付朝日新聞は、官场小説の第一人者である張平氏

が、山西省副省長に選出されたと報じたから驚き。日本では政官財の癒着を暴いた小説が大人気だが、今中国ではカネ、権力、美女の誘惑に直面した男たちがどう振る舞うかが、テレビドラマで大人気とのこと。「官场小説」の草分けである陸天明氏は、「絶対的権力は必ず腐敗する」と断言するが、その当否を含めて中国のメディアが報じない汚職を克明に描写する官场小説に注目だ！

2008(平成20)年4月10日